



2011/2/25

編集・発行：アド・イタリア

## politica

身から出た錆びとはいえ、このところ窮地に立たされているベルルスコーニ首相。たび重なる「暴露」や「訴追」も、「すべて検察と共産主義者の陰謀」と開き直るが、政権はすでに内部からも崩れはじめている。

昨年11月には長年にわたり与党の一角を担ってきたフィーニ下院議長とそのグループ「イタリアの未来と自由」が4人の閣僚と共に政権を離脱、「自分の利害を最優先し、法に対する意識の希薄な」首相に辞任を求めた。政権内で主要ポストを占める「北部同盟」も、リーダーのボッシ氏が提唱する連邦制度を成立させなければ今後の協力はありえないとしている。

新しい中道勢力「第三の極」が台頭しつつあるが、これほどの苦境にあっても「辞めない！」と息巻く現首相に対抗できるリーダーはまだ見つかっていない。

## イタリア統一 150 周年



政界での抗争や分裂をよそに、3月17日の統一150周年を祝う気運が全土で高まっている。

式典や回顧展だけでなく、「統一」にちなんだワイン、オリーブオイル、チョコレート、フェラーリやランボルギーニの特別仕様車などが準備され、例えばワインは、イタリア各州の土着品種であるサンジョヴェーゼ、バルベーラ、ネッピオーロなど20種類以上を合わせて「統一」し、できあがった紅白のワインを大統領に献上するという。

では、統一国家イタリアはどのようにして誕生したのだろうか。

小さな、たくさんの「祖国」からなるイタリア。新しい国の基盤となったのは、こうした祖国、市民の生活圏である都市だった。

すでに紀元前8世紀の昔から、イタリア半島にはエトルリア人やギリシャ人が小さな都市国家を築いていた。

紀元前509年に共和制が敷かれたローマでは、市民と貴族が共に政治を担い、周辺都市と同盟して、地中海世界を支配するローマ帝国へと発展した。その後、内紛や異民族の侵入によって崩壊の道をたどり、中世にはゴート族、フランク族、アラブなどの支配下に置かれる。

- 11世紀：交易・海運業の発達とともに独自の政治体制をそなえた都市国家、ヴェネツィア、ミラノ、フィレンツェなどが誕生。
- 12世紀：ロンバルディア諸都市の同盟軍が外国勢力に対抗し、レニャーノの戦いで勝利を収める。
- ルネッサンス期：共和国（ジェノヴァ、ヴェネツィア、フィレンツェ）や公国（ミラノ、モデナ、フェッラーラ）の全盛時代。
- 16世紀～：近隣の大国、フランス、スペイン、オーストリアの勢力下に置かれる。
- 19世紀初頭：ナポレオンがオーストリア勢力を一掃し、イタリア王国を成立させる。その失脚後、ウィーン会議（1815年）で10ヶ国に分割され、外国の属国となる。

これに反対して自由主義思想が広まり、急進的な秘密結社、カルボナーリ（炭焼き党）が台頭する。1860年には同党員の詩人・劇作家シルヴィオ・ペトリコが自由と愛国心を →

## società



Mimosa in fiore (Viterbo)

春を告げるミモザの花。2月から3月にかけて畑の隅や道端に咲くカナリア色のミモザは、3月8日の「女性の日」に、小さな花束にして女性たちに贈られる。光と豊穡の象徴とされ、この日が定められた戦後の貧しい時代に最も手に入れやすい花だった。

## Mercato nel Campo



中世の面影をそのままに残すカンポ広場。14世紀、シエナ共和国の時代には毎週ここで市が開かれていた。昨年12月、当時とまったく同じ配置で152の露店が並べられた。貝殻の形をした広場の半分は食料品の屋台、あとの半分は地元の手工艺品、美術や歴史の本、骨董品の店。実演やアトラクションも行なわれ、夜遅くまで賑わった。

年末のイタリアでは、このようなメルカート（野外市場）が各地に設けられる。

登山電車で氷河や谷を越えてやってくる旅行者や買物客のために、特産のチーズや木彫細工の市を開くアルプスの小さな村もある。



foto di Giuliano (da Siena)

→ 謳う『コンチリアツィオーネ（和解）』を刊行。反逆罪で死刑を言い渡され、ヴェネツィアの「嘆きの橋」脇の監獄に送られるが、10年後に特赦を受け、『獄中記』を著す。

ナポリ蜂起、シチリア蜂起など、若い知識人、青年貴族、将校、民衆が革命に身を投じ、各地で革命の炎が上がるが、いずれも失敗に終わる。マツィーニのように地下活動と亡命を繰り返し、異郷で祖国の統一に尽くした者もいる。何度もの挫折の後、リソルジメント（統一運動）は半島全体に広がり、1842年、スカラ座でヴェルディの『ナブッコ』が初演されたときには、祖国を想う合唱、「行け、我が思いよ。金色の翼にのって」が感動を呼ぶ。→

## economia

1ユーロ/114.88円(2/24)

地中海式食生活、世界無形文化遺産に認定

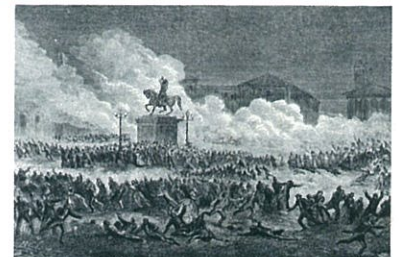
イタリア、スペイン、ギリシア、モロッコの伝統的食材と料理からなる地中海式食生活（dieta mediterranea）が、ユネスコの世界無形文化遺産に認定された。イタリアでいえば、パスタ、新鮮な果実や野菜、魚、オリーブオイル、乳製品、肉、ハーブやスパイス、ワインを中心とした伝統的食生活が健康への近道であることに、世界的なお墨付きが与えられた形だ。

『英国医師会誌（British Medical Journal）』に掲載されたフィレンツェ大学栄養学の研究グループの報告によれば、地中海式食生活によって、パーキンソン病やアルツハイマー病の発症率が13%、心臓血管系疾患が9%、悪性腫瘍が6%下がった。

## 有機栽培のブドウで

ワイン愛好家の「バイブル」、『ワイン・スペクテーター』が毎年発表する待望の「トップ10」。イタリアワインはFontodi社のColli della Toscana Centrale Flaccianello 2007が8位にエントリーされた。

「嬉しい驚きです」と語るのは、Fontodi社社長のジョヴァンニ・マネッティ。「有機栽培を選択したことがブドウとワインの品質にこれほどの大きな成果をもたらしたことは、パンツァーノ・イン・キアンティにとってもトスカナ州全体にとっても、きわめて大きな意義をもっています」。



→ 1859年、トリノ（ピエモンテ）を拠点とするサルデーニャ王国首相、カヴールはオーストリアからロンバルディアを奪回する。一方、ガリバルディは、1860年、千人隊とともにシチリア島に上陸。度重なる反乱と抑圧に疲弊していた南イタリアをブルボン家から取り戻し、サルデーニャ王国との併合・統一へと導く。

1861年3月17日、トリノの新議会が、統一国家イタリアの成立を宣言する。

イタリア半島はその穏やかな気候、美しい風土により、常に格好の侵略地とされてきた。その中で都市国家は、共和国、公国、王国などの違いはあったにしても、あらゆる時代の困難と変遷を生きぬいてきた。すべての道がそこで交わり、市が立ち、周辺一帯を結ぶ中心地。そこに住む人々は侵略に脅かされつつも、高い市民意識をそなえていた。帝政とは対極にあるそのような意識が、統一への真の原動力となったのである。

都市国家、それはイタリアという国の生まれながらにしての魅力であり、矛盾なのかもしれない。